

## シャイム・サンダ研究員（インド）

インドは地理・気象条件により、自然災害に対して脆弱です。洪水、地滑り、雹害、火災、サイクロン、地震、雪崩、干ばつなど多種多様な災害が繰り返し発生しています。国土面積の60%は地震による被害を、68%は干ばつによる影響を受けやすくなっています。1990年代には、年平均で4千名以上の人命が失われ、3千万もの人々が被災しました。

2001年1月のグジャラート地震を受けて、自然災害管理業務は、2002年6月から内務省に移転され、国家・国際レベルでの調整活動の主導的役割を担っています。

インドでは、関係州政府がコミュニティレベルでの災害管理の責務を担っています。たとえば中央政府は、ロジ・財政面での活動支援や国家・国際レベルの防災活動の調整を行う一方で、救援・救助活動の実施、予防・軽減の支援、人材育成については、下部機関が担当しています。また、自然災害による緊急事態に対応するために国家緊急行動計画（NCAP）を策定し、この計画に基づいて、各中央省庁が災害発生後の行うべきイニシアティブを特定しています。

私は、今年10月にアジア防災センターの客員研究員として来日しました。ここでは、インドの防災に関する経験を共有し、日本の防災システムについて研究を行い、インドの災害による被害を軽減するために建設的な貢献を行いたいと考えています。そして、インドと日本との協力関係を推進していきたいと思っています。

